

早期臨床実習を終えて

歯学科1年 高野 日菜

今年度の早期臨床実習も新型コロナウイルスの流行のため、実際に医療現場を見学することはできず、各診療科の先生方による講義と、「専門診療科の必要性を考察する」というテーマでのグループワークを行いました。

各診療科の先生方による講義では、各診療科の役割や治療内容などについて紹介していただきました。実際に治療を行っている様子や、治療後の変化を動画や画像を用いて説明していただき、実際の治療の様子を見ることができる貴重な機会でした。どの診療科の講義も初めて知ることばかりで興味深かったですが、具体的にどのようなことをするのか分からなかった診療科や聞いたことのない診療科の講義は特に興味深かったです。講義を通して、今後たくさんのことを身に着ける必要があると知り、学びきれぬのか不安に感じましたが、同時に、自分が理想とする歯科医師になれるよう頑張ろうと気持ちを引き締めることができました。

グループワークでは、1グループ7～8人に分かれて専門診療科の必要性について討論し、そこで出た結論について学年で全体発表を行いました。私たちのグループでは、各専門診療科について調べ、その診療科が必要な理由を考察しました。また、専門診療科があることによるメリットとデメリットを歯科医師目線と患者さん目線で考察し、専門診療科は必要であるという結論を出しました。話し合いでは、様々な考えを持ったメンバーと意見交換をすることで、自分の考えを深めることができました。全体発表では、正反対の主張をしているグループがあったり、同じ主張でもその主張に持っていくまでの考え方が異なるグループがあったりし、様々な意見を聞くことができ、とても勉強になりました。

早期臨床実習で歯科について学び、考えること

で、知識や考えが深まるだけでなく、今後の学習へのモチベーションが高まったように感じます。この授業を通して学んだことや感じたことを忘れず、今後の学習に励みたいと思います。

口腔生命福祉学科2年 富高 愛

今年度の早期臨床実習は、今後学習する知識・技術がどのように保健・医療・福祉の現場で生かされているか見学を通して学習しました。新型コロナウイルス感染拡大防止に務める中、見学をさせて頂いた4施設には心より感謝しております。

特別養護老人ホームばんだい桜園では、入居者ひとりひとりの生活スタイルを把握しニーズに応じた対応や提案をする社会福祉士の姿が伺えました。それは入居者に対してだけではなくご家族へも同じです。プライベート空間がありながらも人との交流があるこの施設は温かさが感じられ、施設での生活をより快適で穏やかなものにしていました。

医療センターでの歯科衛生士の業務は診療補助だけではありませんでした。急患もあることからその場面毎に考え判断しなければなりません。何の情報が必要か、何を準備しなければならないのか、さらにその優先順位を考え行動する病院歯科での歯科衛生士の動きはとても難しそうに感じました。

保健所では、1.6歳児健診と3歳児健診を見学しその両者では雰囲気は全く異なっていました。パターン化した対応ではなく、ご家族に応じた相談しやすい環境作りをしていました。病気や発達障害の早期発見はもちろん、虐待のリスクを鑑みる場でもあることを学び、時代の流れに応じて健診の在り方も変わっていることに気づきました。

児童相談所では、歳も背景も課題も違う子どもたちが集団生活をしている部屋を実際に訪れまし

た。大人との関わり方を一緒に生活していく中で教えることは、その子自身の成長だけでなく親の成長にも繋がることを学びました。

施設見学のほかにも高齢者疑似体験、患者面接法、バイタルサイン測定など、今後の基礎実習・臨床実習を効果的かつ安全に実施するための基礎

的知識・技術を身につけました。この早期臨床実習を通し、これからの学習に対する意識を高めることができました。後期から始まる基礎実習・臨床実習に意義を持って取り組んでいきたいと思います。

